

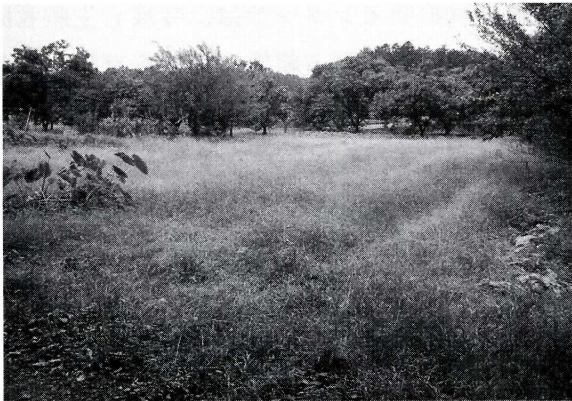
団体営基盤整備促進事業 狭山市笹井地区の完了について

狭山市西部の畑地帯に位置する受益面積17.2haの笹井地区は、排水路がないために大雨時に湛水被害が発生したり、道路が狭いために農業用資材や収穫物の搬出入に支障をきたしていたことから、耕作放棄地が点在するなど、種々の問題が生じていました。

このため平成17年度から狭山市が事業主体となって基盤整備促進事業による、区画整理や

排水施設整備、道路整備を実施してきた結果、本年3月末に全ての整備が完了する見込みとなりました。

今後は、作業効率のアップや労力の軽減、排水改良などによる、サトイモなど露地野菜の計画的な生産が可能になる等、飛躍的な生産性の向上が図られると大いに期待されています。



施工前



施工後

農業用水の安定取水、災害防止に貢献する古南第一揚水機場の改修完了

平成19年に農業用河川工作物応急対策事業「古南地区」として開始した古南第一揚水機場（荒川右岸用排水土地改良区が管理、川越市東部の古谷本郷地内）は、用水樋管などの改修が平成22年3月で完了します。

この揚水機場（用水面積347.5ha）の用水樋

管は、昭和18年（64年前）に建設され、その後、荒川の河床低下等から取水が困難となり、昭和37年（45年前）に用水樋管内部に導水鋼管を通し、荒川から直接、ポンプによって取水をしています。建設後に行われた堤防の嵩上げ等から用水樋管等に不等沈下や老朽化等が生じ、樋管等の破損や河川堤防の破堤が懸念されていました。

このため、災害を防止し、農業用水の安定供給を図るため、総事業費1億4300万円で、用水樋管の補修122.3m・導水鋼管の補修129.9m・揚水機場の補修を行いました。樋管等の改修は、荒川堤防の開削等を行わない充填工法（ウレタン、モルタル）や鋼管更正工法（インシチュフォーム工法）等で行いました。

